

本日の為替見通し

ポイント

ユーロ圏財務相会合で、ギリシャ第2次支援の最終決定は持ち越しとなったが、合意に向けて一步前進したことは間違いないと思われる。市場参加者には数日中の合意を期待する声が多いが、レーン欧州委員は「ギリシャは緊縮策でユーロ・メンバーを説得する必要がある」と言う、また、独政府高官からは「ギリシャで合意された緊縮策はまだ救済条件を満たす内容ではない」とも言われている。

ギリシャ連立与党党首の一人は「トロイカと合意した財政削減は当初より半分になった」とのことで、ギリシャ政府は、2015年までの国有資産売却による資金調達目標を500億ユーロ→190億ユーロに引き下げたと発表していた→これで合意できたのでは？

昨日注目されれば、BOE 金融政策委員会と、ECB 理事会は、大方の予想通りの結果で、サプライズはなく、ギリシャを巡る報道に相場が上下する流れが続いたが、ドラギ ECB 総裁の記者会見で、日本政府・日銀の単独円売り介入に不快感を示したのが印象深かった。

先に米財務省が議会へ提出した四半期為替報告書でも、日本政府・日銀の介入に対して不快感を示していたことを思い出す。トルシェ前 ECB 総裁も批判的な発言をしていたが、これでも、日本単独で積極的に円売り介入を実施することができるのであろうか？ 今後の介入スタンスに影響はないのであろうか？

欧米の目はギリシャ問題に釘付けとなっており、日本経済や為替政策の事はあまり興味がないと言うのか、今のところ全く視野に入っていないと思われるが、USDJPY が最安値を更新するか、75 円のサイコロジカルな壁をブレイクするまでは、積極的に単独介入もできにくくなっているように思えてならない。仮にあったとしても3月の決算月になる可能性もある。

例年3月は日本の本決算月で海外からの円送金や利益確定のドル売りが多く、例外の年はあるものの、円高になることが多いと言われているが、今年もそうなるとは限らない。今は日本の製造業の伸びも鈍く、海外投資の大幅拡大の最中でもあり、欧州が安定してくれば、円は安全資産として注目される可能性が薄らぎ、円売りになる可能性も指摘されている。

ただ、現段階では、ギリシャ第2次支援の実施の有無が最大のポイントで、本日もギリシャ政府がどのようにして、ユーロ・グループを説得させる内容を提示できるか、それを待つことにしたい。

本日は、RBA(豪中銀)の議事録の公表と、ドイツ、スイスの消費者物価指数、米国の貿易収支とミシガン大学消費者信頼感指数に注目したい。そして、本日は週末金曜日、ポジション調整も入りやすく、相場変動が大きくなりやすい日でもある。

マーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25 日指数移動平均線は 1.3085、この線を下限に上場トレンドが続いている。 DOPup=1.3471、DOPdn=1.2815。 スロー・ストキャスティックは%K=80.49、%D=76.26、売りから買いへ変化し、ベースは買われ過ぎゾーンに近い。

EURJPY(日足) = 25 日指数移平均線は 100.49、この線を下限に上昇してし、下降トレンドラインの上値を超えている。 DOPup=102.96、DOPdn=97.95。 スロー・ストキャスティックは%K=69.34、%D=58.78、買いを継続し、ベースはニュートラルゾーンに近い。

USDJPY(日足) = 25 日指数移動平均線は 76.95、終値ベースではこの線を上抜けし買いの流れに入っている。 DOPup=77.85、DOPdn=75.66。 スロー・ストキャスティックは%K=66.05、%D=44.82 で、買いに変化し、ベースはニュートラルゾーンに近い。

## 本日のCFD見直し

## ポイント

BOEが資金買入枠を500億ポンド拡大したことで、リスク資産の上昇も期待されているが、ドラギ ECB 総裁がさらなる金融緩和に関して一切コメントもなく、理事会でも討議されていないことが判り、新たな材料探しになっている。テクニカルでは金・原油共に上昇トレンドに入っており、トレンドが変化するまでは底堅い展開が予想される。ギリシャ第2次支援の行方も非常に注目されるが、ここ数日の交渉の結果等を見ても、いずれ合意することを織り込んでいるのか、相場への影響はあまりない。

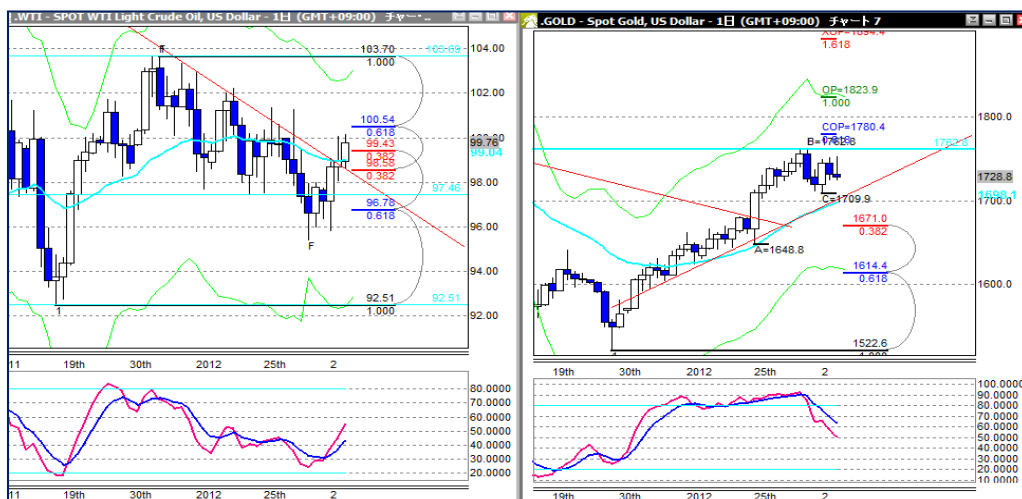
## ◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMAは99.04でこの水準を超えてからはこれがサポートレベルになっており、かつての下降トレンドにも当たり、重要なポイントとなっている。ストキャスティクスは買いを継続し、上値を試す動きが続く可能性もある。上値のポイントは100.54、103.70、下値のポイントは98.58、96.78。

## ◎Spot.Gold

EMAは1698.06でこの水準に沿って上昇が続いているが、前回の高値1763近辺をブレイクすれば、再び強い上昇トレンドに入れるが、最近レンジに入り、上値も下値も限られた範囲での取引が続いている。上値のポイントは1762.8、1780.4、下値のポイントは1710、1671。

## マーケット・レベル



Spot.WTI(Light Crude Oil) (.WTI 日足) = 25 日指数移動平均線は 99.04、終値ベースでこの線を上回っている。DOPup=102.66、DOPdn=92.42。スロー・ストキャスティクスは%K=55.10、%D=43.19で、買いを継続し、ベースはニュートラルゾーンに近い。

Spot.Gold(.GOLD 日足) = 25 日指数移行平均線は、1698.06、この線を下限に上昇している。DOPup=1827.57、DOPdn=1620.49。スロー・ストキャスティクスは%K=50.40、%D=63.38で、売りへ変化し、ベースはニュートラルゾーンに近い。

## 2月10日(金曜日) 注目の経済指標 その他

## 発言・その他

- 09:30 豪中銀(RBA)議事録
- 02:30 バーナンキ FRB 議長(講演)
- 02:50 ピアナルト・クリーブランド連銀総裁(講演)

## 注目の経済指標

- 16:00 ドイツ 消費者物価指数
- 17:15 スイス 消費者物価指数
- 22:30 米国 貿易収支
- 23:55 米国 ミシガン大学消費者信頼感指数

2月10日(金曜) 本日の主な経済指標と発表予定

9:30	AUD 豪中銀(RBA)議事録
16:00	GER 1月 消費者物価指数・確報=前月比予想-0.4% 前回-0.4%、前年比予想 2.0% 前回 2.0%、EU 基準 CPI 前月比予想-0.5% 前年比予想 2.3% 前回 2.3%
17:15	CHF 1月 消費者物価指数=前月比予想-0.3% 前回-0.2%、前年比予想-0.8% 前回-0.7%、EU 基準 CPI 前月比予想 前回 0.3%、前年比予想 前回-0.4%
18:30	GBP 1月 生産者仕入価格=前月比予想 前回-0.6%、前年比予想 前回 8.7%、生産者出荷価格=前月比予想 前回-0.2%、前年比予想 前回 4.8%、生産者出荷価格コア=前年比予想 前回 3.0%
22:30	CAD 12月 貿易収支=予想 6.5 億カナダドル 前回 10.7 億カナダドル
22:30	USD 12月 貿易収支=予想-485 億ドル 前回-478 億ドル
22:55	USD ミシガン大学消費者信頼感=予想 74.0 前回 75.0

昨日(2月9日)の海外市場の動き

アジア時間の朝方にはNZの失業率にNZDは上下し、ギリシャ連立与党の緊縮財政は合意に至らず EURは上下。英国経済指標は全て強く一時GBPUSDで買いの流れが強まったが、EURGBPの買いで元の水準に逆戻り。BOEは予想通り金利据え置きと、資産買入枠の拡大を発表。ECBは政策金利の据え置きと、ECBの国債買い取にはノーコメント。米国10年債利回りは大幅上昇し、リスク資産はやや軟化傾向。ギリシャ関連で相場が動いたが、終わってみれば円安が目立ち、リスク関連通貨は弱く、多くの主要通貨はそれほど変化なし。

◎NZの第4四半期失業率は、前期比 6.3%(予想 6.5% 前回 6.6%)と強かったが、就業者増減数=前期比 0.1%(予想 0.4% 前回 0.2%)が弱く、買いから売りへ変化

◎中国消費者物価指数は、前年比 4.5%(予想 4.1% 前回 4.1%)、春節の影響で非常に強い数字となった→預金準備率の引き下げが遠のくとの思惑に、AUDUSDは一時売りから、買い戻したが強まる

◎ギリシャ連立与党の党首会合は、年金引き下げで合意できず→EURUSDは一時売りから、買い戻したが強まる

◎英経済指標は強く、一時GBPUSDは上昇へ、貿易赤字額は-71.11億ポンド(予想-87億ポンド 前回-89.08ポンド)、鉱工業生産高は予想を上回る、前月比 0.5%(予想 0.2% 前回-0.5%)、製造業生産は予想を上回る、前月比 1.0%(予想 0.4% 前回-0.1%)

◎BOE金融政策委員会は、政策金利 0.5%の据え置きと資産買入枠を500億ポンド拡大し3250億ポンドに決定、

◎ECB理事会は、政策金利 1.0%の据え置きを決定

◎ドラギECB総裁、景気見通しの改善を示唆、一段の景気刺激策の必要性が薄らぐ

◎ギリシャ連立与党はEU・IMFの支援条件である緊縮財政措置で合意

◎パパデモス・ギリシャ首相は、ギリシャ政府とトロイカとの間で進められていた協議は、さらなる話し合いに余地を残しながら、合意に至った

◎IMFはギリシャ連立与党の改革案合意をうけ、ギリシャ政府と協議を継続

◎ユンケル・ユーログループ議長、ユーロ圏財務相会合はいくつかの提案内容で協議が必要なため、ギリシャ第2次支援の最終決定ない

◎米10年債利回りは1.982%→2.036%に上昇、リスク資産は弱含む

◎レーン欧州委員会委員、EUの決定は、ギリシャの法律制定待ちで、ギリシャは緊縮策においてユーロ・メンバーを説得する必要がある

USDJPY アジア市場は、開始直後の77.00を安値に徐々に底値を切り上げ、仲値直後には77.17まで上昇、77.23まで続伸となった。欧州市場に入ると、一時77.24まで上昇したが、実需の売りに上値は重く、クロス円で売りの流れが弱まると77.10台まで下落、本邦勢の買いに77.30近くまで上昇、ECBの政策金利据え置きに77.30台を上回り買いの流れが続いた。米国市場は、77.20を底値に、円ショートポジションの巻き戻しがきつくと、77.40台を超えてからはストップロスの買いを誘発し、ロンドンフィクシングでも買いの流れが続き、77.70台まで上昇した。

EURUSD アジア市場は、ギリシャ連立与党3党の党首会合で合意に至らず会合を終了との報道に、1.3260→1.3214まで下落したが、ユーロ圏財務相会合までに再度協議をする可能性や、代案の検討をトロイカと協議との報道に1.3260台まで値を戻し、協議終了との報道に進展期待が強まり1.3310台まで上昇した。欧州市場に入り、中東勢の利食い売りや、アジア勢の買いに大枠1.3275~00のレンジで売り買いが交錯、オプションバリアを試し1.3310まで上昇。EURGBPの売りや、ユーロ圏財務相会合でギリシャ支援の決定ができないとの報道に、1.3280、1.3250割われまで続落、ECB政策金利の発表近くでは1.3230台まで下落した。FT紙でギリシャ連立与党が緊縮財政で合意近いとの報道や、ドラギECB総裁が記者会見で「連立与党で支援条件の緊縮措置で合意に達した」と発言に、再び1.33台へ急伸。米国市場に入ってもギリシャ関連の報道で売り買いが交錯、大枠1.3270~1.3310のレンジで推移、ユンケル・ユーログループ議長が「今日のユーロ圏財務相会合でギリシャ第2次支援の最終決定はない」と発表、ようやく落ち着きを取り戻している。

AUDUSD アジア市場は、1.0800近辺で取引が始まり、ギリシャ連立与党3党の党首会合で結論がでずに終わり、利食いの売りが続く中で、中国消費者物価指数が予想を上回り、1.0740近くまで続落、ユーロ圏財務相会合までに再度協議をする可能性や、代案の検討をトロイカと協議との報道に1.0780台まで値を戻し、協議終了との報道に進展期待が強まり1.0820台まで上昇した。欧州市場は、大枠1.0790~1.0820のレンジで売り買いが交錯、ユーロ圏財務相会合ではギリシャ第2次支援で最終決定はできず、1.0780近くまで値を下げた。ギリシャ関連の報道で上下するEURUSDの流れを受け、1.0820台を回復、米国市場に入っても、大枠1.0780~1.0820のレンジで売り買いが交錯した。

## 金・原油価格

ギリシャ第2次支援の合否を巡り、本日も多くの発言が聞こえてきた。ギリシャ首相は連立与党と緊縮財政で合意ができ、トロイカともスタッフでは合意が成立した。正式な合意にはまだ複数のハードルが横たわっていることが発言から感じられるが、とりあえず一步前進。ユーロ圏財務相会合も、その結果を待ってから正式に承認するかを決定するとのこと。今日は、原油価格は比較的堅調に推移、金価格は米国金利上昇の影響なのか、欧州終盤にかけて大きく値を下げた。

## ◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

アジア市場は、取引開始直後の99.10から、ギリシャ連立与党3党の党首会合で合意に至らず会合を終了との報道に、98.60台まで値を下げ、大枠98.63～99.17のレンジで取引が続いた。欧州市場に入り、一時98.80近くまで値を下げたが、99.40台を回復、まで徐々に値を上げ、99.40台を底値に99.80台まで上昇した。米国市場ではギリシャ関連の報道の影響を受け底堅く推移。ギリシャ連立与党は財政緊縮策で合意、ギリシャ政府とトロイカで合意したが、ユーロ圏財務相会合ではギリシャ第2次支援で最終決定はなく、大枠99.30～100.15のレンジで取引が続いた。

## ◎Spot.Gold

アジア市場は、1732台で取引を開始、ギリシャ連立与党3党の党首会合で合意に至らず会合を終了との報道に、1725台まで値を下げた。ユーロ圏財務相会合までに再度協議をする可能性や、代案の検討をトロイカと協議との報道に1734台まで値を戻し、1739台まで続伸となった。欧州市場に入り、ユーロ圏財務相会合でギリシャ支援の決定ができないとの報道に、上値は重く1728台まで下落したが、FT紙でギリシャ連立与党が緊縮財政で合意近いとの報道や、ドラギ ECB 総裁が記者会見で「連立与党で支援条件の緊縮措置で合意に達した」と発言で、1750台を回復した。米国市場では、ユーロ圏財務相会合はギリシャ第2次支援で最終決定はなく、1750台の売りは厚く、1745を中心とした取引から、米国の金利上昇に午後3時から急落を開始し、1728台まで値を下げた。

## 昨日(2月9日)の主な発言・出来事

欧州関連
ドイツ経済技術相＝◎ドイツ政府は昨年第4四半期に鈍化した景気減速局面は間もなく終了する
EU＝◎ギリシャ協議の詳細にはコメントしない
モンティ・イタリア首相＝◎ユーロ圏内の一部の諸国で財政危機や均衡危機に陥るリスクがある
オバマ米大統領＝◎欧州は債務危機の拡大を防ぐ強力なファイアウォールと成長のための計画が必要
ECBは担保基準を緩和＝◎フランス、スペイン、イタリアなどの7カ国中銀が民間から受け入れる担保範囲を拡大

ギリシャ関連
ギリシャ統計局＝◎11月の失業率は20.9%で過去最高となった
アルタファイ欧州委員会報道官＝◎ユーロ圏財務相会合はギリシャのデフォルトや影響を話し合う場にならない
ギリシャ主要労組＝◎公務員連合と労働総同盟は連立与党が緊縮財政で合意したとこへの抗議に、2月10日・11日に48時間ストを予定
独当局者＝ユーロ圏財務相会合では、ギリシャ支援でなら決定しない可能性がある
フェルト独経済諮問委員会メンバー(独ビルト紙)＝◎ギリシャの債務減免でドイツは少なくとも80億ユーロを負担する可能性がある
ギリシャ副労働相＝◎緊縮財政の合意を受け辞任
レーン欧州委員会委員＝◎欧州はリセッション入りした、長期的な成長見通しは弱まった
IMF報道官＝◎IMFはギリシャに新たな融資条件をめぐる協議で、緊縮策を強要していない ◎やろうとしているのは、ギリシャをつ持続可能な軌道に戻すプログラムを考えること
ギリシャ連立与党、サマラス・ギリシャ民主主義党党首＝◎トロイカと合意した財政削減は当初より半分になった
ギリシャ首相とギリシャ連立与党＝◎EU・IMF支援条件の緊縮措置で合意に達した
ギリシャ政府＝◎2015年までの国有資産売却による資金調達目標を500億ユーロ→190億ユーロに引き下げた ◎目標500億ユーロは変わらずだが達成機関を延長する必要がある
パパデモス・ギリシャ首相＝◎ギリシャ政府とトロイカとの間で進められている協議は、さらなる話し合いに余地を残しながら合意に至った
IMF報道官＝◎IMFはギリシャ連立与党の改革案合意をうけ、ギリシャ政府と協議を継続
ユンケル・ユーログループ議長＝◎今回のユーロ圏財務相会合では、いくつかの提案内容で協議が必要のため、ギリシャ第2次支援の最終決定はない
レーン欧州委員会委員＝◎ギリシャ緊縮財政合意についてユーロ圏財務相は徹底的に議論するだろう ◎EUの決定は、ギリシャの法律制定待ち ◎ギリシャは緊縮策においてユーロ・メンバーを説得する必要 ◎ギリシャとトロイカはスタッフレベルでの合意に達した
独政府高官＝◎ギリシャで合意された緊縮策はまだ救済条件を満たす内容ではない

	ドラギ ECB 総裁発言
	◎ECB が政府に資金提供すれば金融支援になるが、ECB が利益の一部と資本割当比率に応じて加盟国に還元するのは金融支援に当たらない
	◎EFSF は政府と同じ役割をしている ◎EFSF への国債売却で損失が発生すれば金融支援とみなされる
	◎今後、現在の金利変更への協議はしなかった
	◎ギリシャ国債で格中銀が保有分や証券市場プログラム(SMP)で買入れた国債の取り扱いは、何も言うことはない
	◎ギリシャ首相から連立与党で支援条件の緊縮措置で合意に達したとの連絡があった ◎ユーロ圏財務相会合では合意内容を精査し協議する予定 ◎民間部門関与(PSI)は ECB は協議に参加していないが、近く合意が得られるとの感触はある
	◎日本の為替介入で、介入が必要ならば多国間の枠組みで実施されるべきで、単独で実施されるべきでない
	◎2 回目の長期リファイナンスオペ(LTRO)は、専門家は強い需要があるとみている前回と同じ水準になる可能性がある
	◎融資の鈍化について ECB は確かに懸念している
	◎景気については、第 4 四半期は非常に弱かったが、最近のデータは経済活動が低水準で安定していることを示唆 ◎年末年始あたりから経済活動に一時的な安定の兆候が弱いながら確認できる ◎先行きは不透明で下振れリスクに左右される ◎ユーロ経済が 2012 年全般に渡り非常に穏やかに回復すると予想
	◎インフレ率は今後数カ月間で 2%を上回り、その後は 2%を割り込む可能性がある

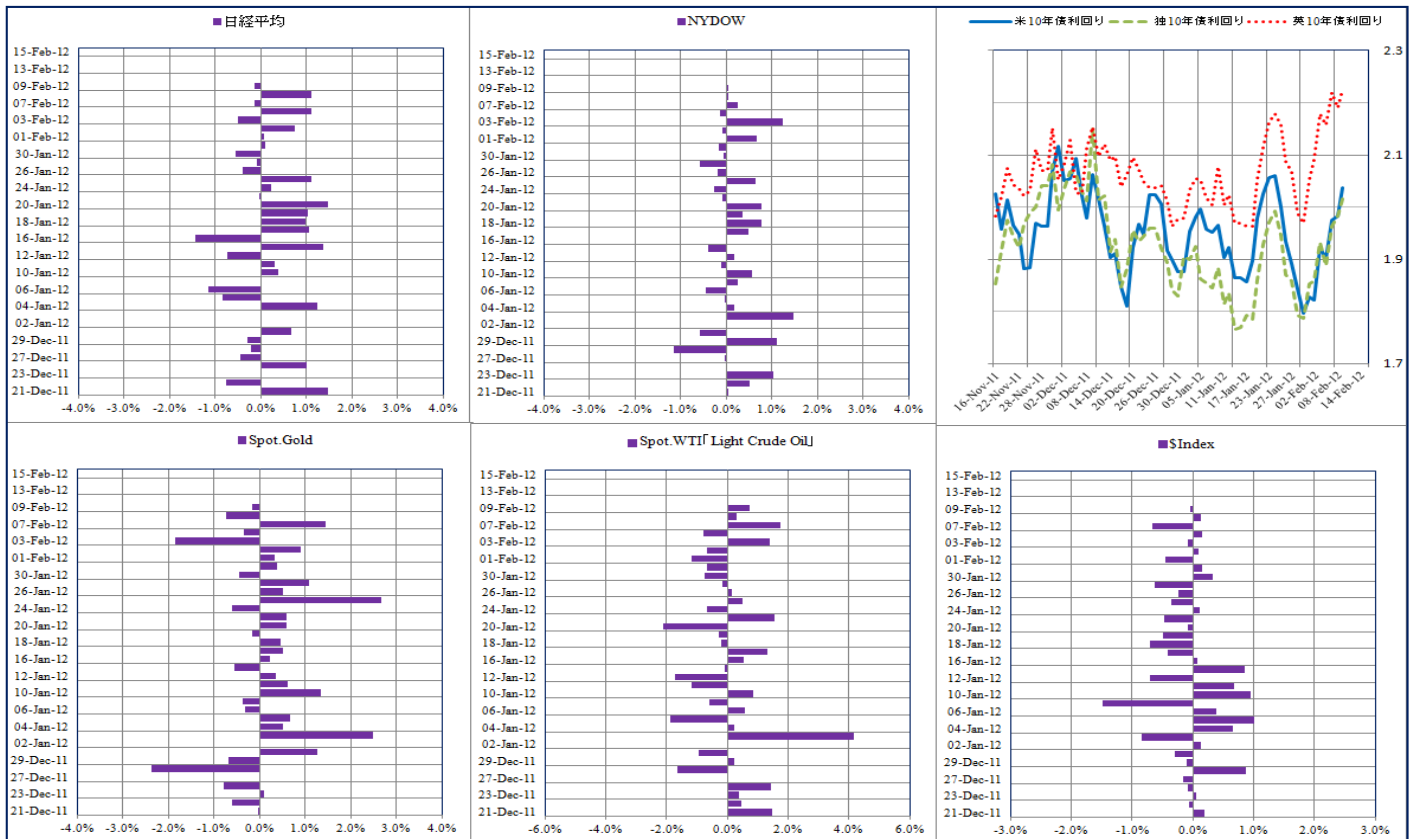
	イングランド銀行(BOE)声明
	◎景気の基調的ベースは 2011 年に失速、第 4 四半期には若干低下した ◎最近の企業調査では今まで以上に前向きな状況がみられ、資産価値は上昇 ◎インフレ低下で実質所得の穏やかな拡大と金融緩和の継続で、生産の拡大を支援
	◎信用ひっ迫と財政再建が足かせで逆風 ◎短期的は生産伸びは弱く、経済の大幅な緩みや今後も続く可能性がある
	◎消費者物価の上昇は 9 月をピークに鈍化、2011 年 1 月の付加価値税(VAT)の引き上げが前年比較から外れ、インフレは短期的に大きく低下するとみられる ◎エネルギーや輸入価格の押し上げ効果も弱まり、失業や余剰生産の downward 圧力で、インフレはさらに低下する可能性が高い ◎インフレ率が中期的に 2%を下回る可能性が高い

CHN	中国国家発展改革委員会=◎国内のインフレ率は春節の連休や悪天候による食品価格の上昇などの一時的要因で、着実に低下
-----	--

## 昨日(2月9日)の経済指標と結果

6:45	NZD 第 4 四半期 失業率=前期比 6.3%(予想 6.5% 前回 6.6%)、就業者増減数=前期比 0.1%(予想 0.4% 前回 0.2%)、前年比 1.6%(予想 1.9% 前回 1.1%)、労働参加率=前期比 68.2%(予想 68.5% 前回 68.4%)
8:50	JPY 12 月 機械受注=前月比-7.1%(予想-5.0% 前回 14.8%)、前年比 6.3%(予想 8.5% 前回 12.5%)
10:30	CHN 1 月 生産者物価指数=前年比 0.7%(予想 0.6% 前回 1.7%)、消費者物価指数=前年比 4.5%(予想 4.1% 前回 4.1%)
18:30	GBP 12 月 鉱工業生産=前月比 0.5%(予想 0.2% 前回-0.5←-0.6%)、前年比-3.3%(予想-3.1% 前回-3.6←-3.1%)
18:30	GBP 12 月 製造業生産高=前月比 1.0%(予想 0.4% 前回-0.1←-0.2%)、前年比 0.8%(予想 0.5% 前回-1.0←-0.6%)
18:30	GBP 12 月 貿易収支=前月比-71.11 億ポンド(予想-87 億ポンド 前回-89.08←-86.44 億ポンド)、EU 以=-37.48 億ポンド(予想-50 億ポンド 前回-50.37←-50.21 億ポンド)
21:00	GBP 英中銀(BOE)政策金利発表=0.50%の政策金利の据え置きを決定、予想通り、資産買入枠=現行 2750 億ポンドから 3250 億ポンドへの増額を決定、予想通り
21:45	EUR 欧州中銀(ECB)政策金利発表=1.0%の政策金利の据え置きを決定、予想通り
22:30	CAD 12 月 新築住宅価格指数=前月比 0.1%(予想 0.2% 前回 0.3%)、前年比 2.5%(予想 2.5% 前回 2.5%)
22:30	USD 週間 新規失業保険申請件数=35.8 万件(予想 35 万件 前回 34.51←34.37 万件)
0:00	USD 12 月 卸売在庫=前月比 1.0%(予想 0.5% 前回 0.0←0.1%)

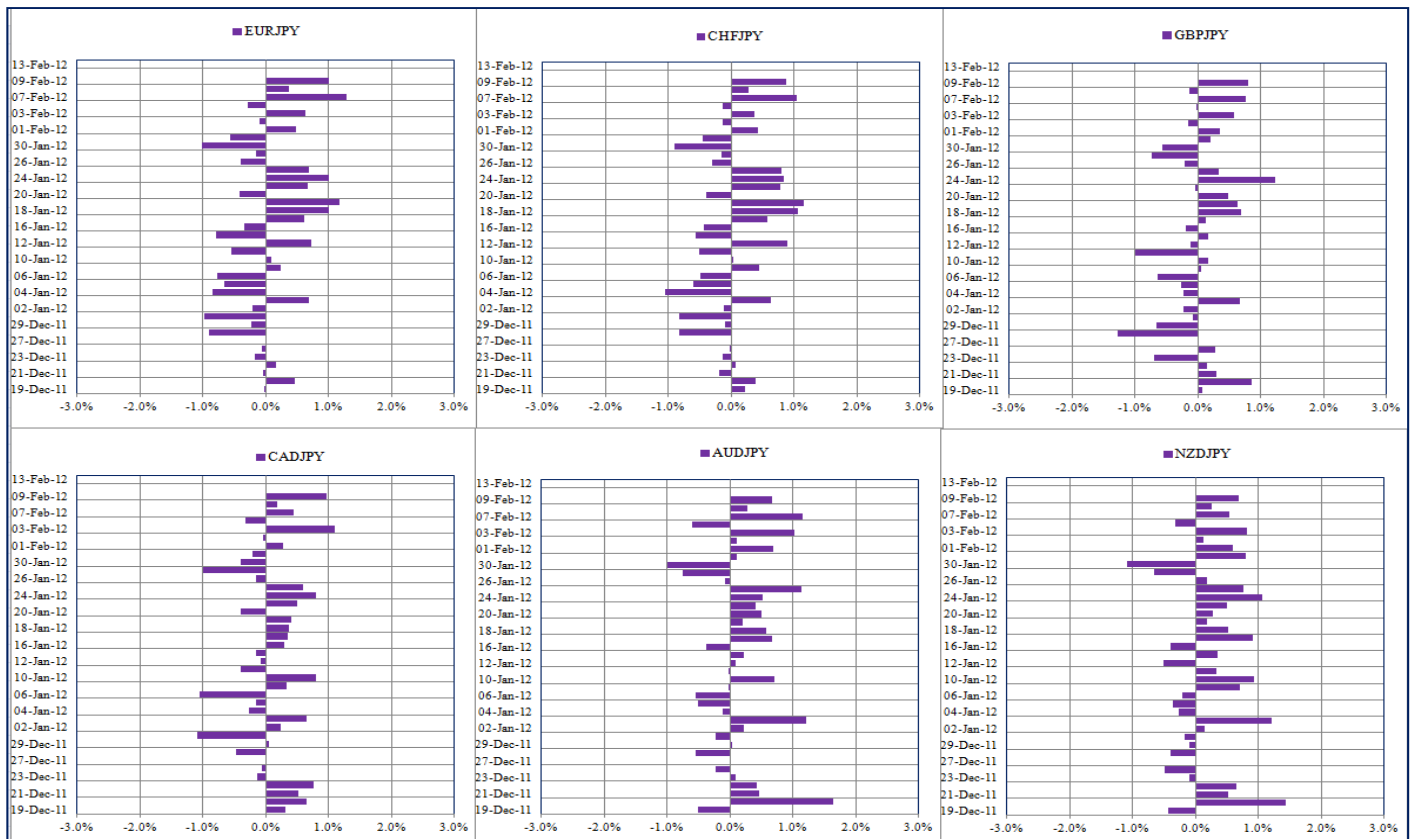
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りの Daily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



## 円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、  
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引 (FX) 及び CFD には、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。[www.gftforex.co.jp](http://www.gftforex.co.jp)

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011